当院におけるHiGROW OVIT Plusと ONESTEP Mediumを用いた培養成績の後方視的検討

KAWA Ladies Clinic

目的

生殖補助医療において培養液の選択は、培養成績に影響を与える重要な要因である。

今回、国産の培養液であるヒト卵管内液を基に開発されたHiGROW OVIT Plus（扶桑薬品工業）（以下OVIT)と国産の培養液でありHTFをベースに種々のアミノ酸、パントテン酸、ヒアルロン酸等を加えたONESTEP Medium（Nakamedical）（以下ONE）の培養成績を比較検討した。

対象と方法

2023年4月から2024年3月にConventional-IVFを施行した80周期575個を対象とした。

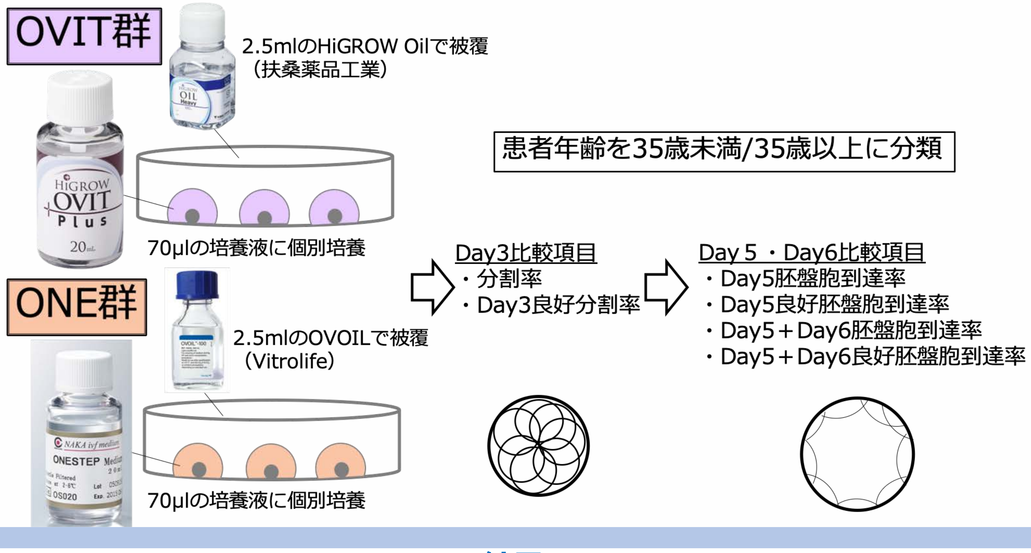
Conventional-IVFを施行し、Day1からDay6までOVIT群もしくはONE群で培養した際の培養成績について患者年齢を35歳未満、35歳以上に分類して後方視的に比較検討した。

当院のDay3良好分割胚の基準は、Veeck分類におけるGrade1・2・フラグメントを認めない5細胞以上、良好胚盤胞は、Gardner分類における3BB以上としている。

また、同一期間内に凍結した胚を対象として臨床妊娠率を比較検討した。

統計解析としてFisher's exact testを実施し、*P* ＜ 0.05を以て有意差ありとした。

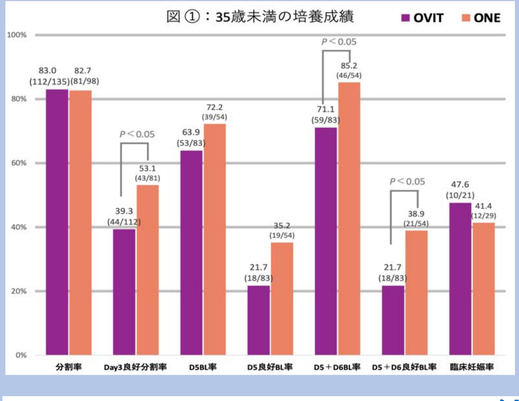
Day1からの培養方法と比較項目

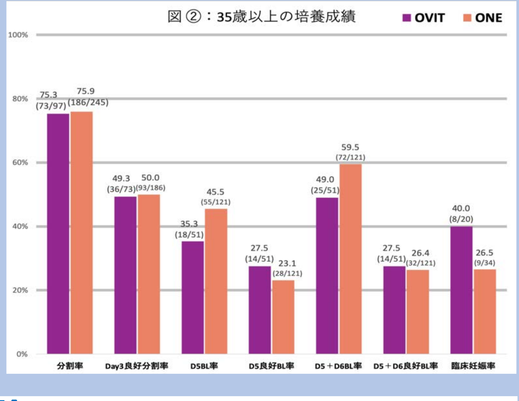


結果

**35歳未満における
OVIT群17周期（年齢30.7±2.8歳）と
ONE群15周期（年齢30.7±2.4歳）の培養成績は、ONE群においてDay3良好分割率、Day5＋Day6胚盤胞到達率、Day5＋Day6良好胚盤胞到達率が有意に高かった（図①）。**

**35歳以上における
OVIT群15周期（年齢39.7±2.5歳）と
ONE群33周期（年齢 38.3±2.3歳）の培養成績は、全ての項目に有意差は認められなかった（図②）。**





結論

**Conventional-IVFの35歳未満においては、OVIT群と比較するとONE群の培養成績が良好であった。
本検討から当院において、ファーストメディウムとしてONESTEP Medium を使用する事でDay3良好胚及びDay5＋Day6良好胚盤胞率が有意に高くなることが示唆された。**

**35歳以上においては、有意差は認められなかったが、OVIT群の方が良好胚盤胞率及び臨床妊娠率は高い傾向だった。
高齢患者では、卵管内液類似組成により胚質改善が見られ、妊娠率が向上した可能性も考えられる。
今後は年齢を考慮しながら培養液の選択を検討していきたい。**